

# 保育講演会レポート

## テーマ「幼稚園で育つ親心」

—幼児は育てる人を育て、その心をつつにするために生まれてくる—

講師：音楽家／作家 <sup>まつ い かず</sup> 松居 和 先生

2015年6月9日（火）／参加者 100名



### 松居 和 先生 プロフィール

1954年、東京生まれ。慶応大学哲学科からカリフォルニア州立大学（UCLA）民族芸術科に編入、卒業。尺八奏者としてジョージ・ルーカス制作の「ウィロー」、スピルバーグ監督の「太陽の帝国」、ブラッド・ピット主演「レジェンドオブフォール」をはじめ多数のアメリカ映画に参加。

1988年、アメリカにおける学校教育の危機、家庭崩壊の現状を報告したビデオ「今、アメリカで」を製作。

1990年より98年まで、東洋英和女学院短期大学保育科講師。「先進国社会における家庭崩壊」「保護者の役割」に関する講演を保育・教育関係者、保護者対象に行い、欧米の後を追う日本の状況に警鐘を鳴らしている。

埼玉県教育委員会委員（2006年から2010年、2009年から2010年までは委員長）を経て、埼玉県児童福祉審議会委員（2010年から2012年）を務めた。

2008年、製作、監督したドキュメンタリー映画「シスター・チャンドラとシャクティの踊り手たち」が第41回ワールドフェスト・ヒューストン国際映画祭、長編ドキュメンタリー部門で金賞受賞。イングランド国際映画祭、南アフリカ国際映画祭招待作品。

子育て関連の著書に「家庭崩壊・学級崩壊・学校崩壊」「子育てのゆくえ」「21世紀の子育て」「親心の喪失」（エイデル研究所）。新刊「なぜ、わたしたちは0歳児を授かるのか」—親心の幸福論—（国書刊行会）

DVD 作品に「シスター・チャンドラとシャクティの踊り手たち」講談DVD「21世紀の子育て」（ロードプロモーション）など。

長いアメリカでの生活の中で垣間見た、育児の、家庭環境の現実。アメリカを見てしまったから、講演を通して伝えていこうと決めたと仰っていました。同じ道を進みつつある現在の日本。子育てに関わる、関わらないを問わず、すべての人に伝えたいメッセージを、2時間に渡り語って下さいました。松居先生の軽快なトークに笑い、涙し、心を大きく揺さぶられる感動に包まれるものとなりました。

### 講演内容

宇宙が0歳児を人間に与えつづけるのはなぜか？ 幼児はおとなの心をつつにするという大きな力を持って生まれてくる。

—幼児は育てる人を育て、その心をつつにするために生まれてくる—

アメリカでは、現在3人に1人が母子家庭、また5人に1人が近親相姦の被害に逢う環境に生まれてくる。そういった環境で育った子どもが、幸せになりたくてまだ子どものうちに子どもを産んでしまう。パートナーも相談相手もない状況で虐待に走ってしまう…。そういった負の連鎖が生まれている。

アメリカではこういった現実を解消しようと、孤児院をたくさん作り、そこに不幸な環境の子どもたちを受け入れ、育てることで解消しようとする動きがあるが、それは大きな間違いで、そんなことをしたら「親」「親心」が育たない。0歳児や幼児の「育てる人を育てる」という本来の大きな役割を果たせなくなってしまう。そうなるとうどうなるか。「親心」を持ってない大人が増え、負の連鎖はさらに続き、破滅の道へと進んでしまう…。

子どもは、親を、周りの人間を「いい人」にしてくれる。おじいちゃん、おばあちゃん、不良の高校生まで、幼児と触れ合うだけでみんながみんな「いい人」になることができる。この役割を全うできないと、幼児期を過ぎてからもいろいろな方法で親を育てようとする（不登校、素行不良など）。

日本でも共働きの家庭が増え、それとともに保育時間の長い幼児が増えてきている。しかしそのような実状の中でも、社会に絆があれば、親と子に絆があれば、子どもは輝き、すくすく育っていきける。母ちゃんが元気で、笑っていれば大丈夫！

結婚や子育ては本来不自由なもの。しかし人間は不自由の中に、幸せを感じることができるようになっていく。なぜならそこに絆があるから。人間は相手を理解した時ではなく、理解しようとした時に幸せになれる。そして平和になれる。

父ちゃんが一生懸命稼いできたお金を、母ちゃんは子どものためにじゃんじャンドブに捨てればいい。子育てを通して、夫婦の心が1つになっていけば大丈夫。

宇宙が0歳児を人間に与えつづけるのは、話すこともできない、何一つ自分ではできない存在を相手に右往左往しながらも、相手の気持ちを理解しようとしながら「不自由になれよ」「幸せになれよ」というメッセージなのだろう。

先生はお話の中で、子育ては周りに相談できる人がいるかいがないかがとても大切だとおっしゃっていました。良い答えが返ってくるかどうかではなく、相談できる人がいるかいがないか。

私たちは、子どもの親として、この野毛山幼稚園で出会うことができました。子育ての悩み、喜び、悲しみを、そばにいる方に打ち明けることができる絆が、私たちにも作られることを祈ります。

最後に、講演の中で先生が朗読された詩を紹介します。

### 「お母さん、どこ」 作・小野省子

「ヒカリちゃんのお母さん、どこかしら」  
「ここにいるじゃない」  
「それはコウちゃんのお母さんでしょ」

弟を抱いた私に、娘は言った  
長いまつげの小さな目は  
悲しげにも見えたし、何かをためしているようにも見えた

「じゃあ、ヒカリちゃんのお母さんはどこにいると思うの」  
「病院に寝ているんだと思う。バアバが言ってたよ。  
ヒカリちゃんのお母さんは、病院に行ったよって」

娘は、私が弟を出産した日のことを言っているのだ  
「お母さんをむかえに行かなくちゃ」  
玄関でくつをはこうとする娘の  
小さな背中を見ていたら  
私は 夕闇のなかで  
大切な人に置き去りにされたように  
心細くてたまらなくなった

同時になぜか 動揺している自分が  
くやしきもあるのだった

娘はふり返って  
私が泣いているのを見て  
「あっ、ヒカリちゃんのお母さん、  
やっぱりここにいた」と  
無邪気な風に言うのだった

講演会のDVDの貸し出しを  
しています。  
ご希望の方は事務室まで…



文責 ひまわり組広報

金子 博子 鳥居 僚子 平田 恵美  
中沢芽衣子 齋藤 知子 佐藤 祐子

## 講演会に参加された方から…

ひまわり赤 新井真保子

6年前に夫がなに気なく言った言葉を思い出しました。夫が長男を幼稚園に送って行った時のことです。「幼稚園があまりにも善良な空間でびっくりした」「先生方がみな息子に笑顔で声をかけ、受け入れてくれて、自分にも笑顔でおはようございますと言ってくれる」それを聞いた私は幼稚園なんだからそりゃそうでしょ、またこの人変なこと言ってるな、と思った程度だったと思います。でも松居先生のお話を聞いて、そのときの夫の心情が今になってやっと分かりました。毎日足早で満員電車に乗り会社へ向かう彼の日常とはまるで異空間の幼稚園という場所。宇宙からの贈りものである子ども達がつどう場所に足をふみ入れ、笑顔でおはようと挨拶しあうピュアなコミュニケーションに、不意をつかれて癒されたのだと思います。

子どもが親心を育てる、ということがよく分かりました。私も子どもの心によりそのため自分の幼少期をふり返り思い出したりすることがありますが、そんなとき、子どもにもう一度自分を育てなおしされている、と思うことがあります。あっという間の笑い泣き、泣き笑いの2時間でした。「インドでは毎日カレー！」という言葉に胸に、毎日を笑って過ごせる親でいたいと思いました。

ひまわり赤 鍵山麻祐子

まず、先生の独特の言い回しやテンポのよさに引き込まれました。喋れない頼らなければ生きていけない赤ちゃんを理解しようとする気持ち、忍耐、コミュニケーション、そこから生まれる様々な絆が子供、家庭、社会をより良いものにしていくのだなと感じました。日々子育てや家事に忙殺され、「忙しい」が口癖のようになってしまっていますが、なんだかんだでこの不自由が心地良いのだなと思っている自分にも向き合えたように思えます。

先生のお話の中で、アメリカが子供にとってそこまで住みにくい、育てにくい国になっていることにも驚きましたが、日本もそこに向かって舵をとっている事に恐ろしさを覚えました。

幸い、野毛山幼稚園はお母さん同士が仲良くなりやすい環境、子供のお友達とも接する機会も多く父親もなんだかんだで参加する機会もありとても恵まれた環境を与えていただいているのだなと感じます。世界中の子供が親を近くに感じ、また親も子供を見守り教えられる、そんな日々を過ごせるようになれば人類は平和になれるという先生の言葉は案外人類の平和の最短コースではないかという気がします。

子育てというサイコロを私は2つ投げたので吉と出るか凶とでるかかわからない今は、とりあえず私が元気で笑っていればいいのか、と思うと気持ちが軽くなりました。

笑いあり、涙あり、そしてもう一人子供ほしいな、と思える貴重な体験をありがとうございました。

ひまわり赤 鈴木亜矢

私は講演会后、子どもたちに心をこめて「私（ママ）のところへきてくれてありがとう」と言いました。そして心の中で「私を育ててくれてありがとう」と言いました。素晴らしい講演会に感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

ひまわり赤 中沢芽依子

松居先生のお話は、時間が経つのを忘れる程楽しく、深く考えさせられた2時間でした。娘を育てているのは、父親母親の私達とっておりましたが、娘によって私達も日々、親心を育ててもらっているんだな、と実感しました。時折、自分の子育ては間違っていないか？と不安になる事もありますが、先生が、『子育てをしていて、明るい顔をしていられたら、子育ては成功。』とおっしゃられたのを聞いて、何だか晴れやかな気持ちになりました。このような、貴重なお話を聞く機会を頂き、どうもありがとうございました。

ひまわり赤 伴佳代

前に一度だけ松居先生の講演会をお聞きしたことがあり、今回もすごく楽しみにしていました。先生のお話の中には私の知らない欧米の衝撃的な事実の数々があり胸が痛みました。そして日本はその後を追っているのだと聞き、最近のニュースでは事件を起こす年齢の低さ、家庭内の事件が多いと頭を横切りぞっとしました。

0歳児がそこにいるだけでみんなを笑顔にさせるお話、4歳児に言われた一言で高校生の子のズボンが上がるお話、旦那さんが子供に関わる姿をみて涙する奥様のお話、とても奥が深いと感じました。子供の裏表のない心が大人を育てる。親心を育てる。

先生のお話を聞いて頭に浮かんできた風景それは、子育てに毎日夢中になるお母さん、それを一生懸命に働いて守るお父さん、子供が無邪気に笑っていると言う昔ながらの温かい家庭でした。今回の講演会を聞いて、ますます家族の絆を深め笑顔の絶えない家庭にしていきたいと感じました。このような心があたたかくなる講演会を聞くことが出来た事に感謝いたします。

ひまわり赤 吉井まゆ子

まさに目からウロコといった感じでした。これまで何度か保育講演会に参加させて頂く機会がありましたが、これほど痛快でパワフルで、情熱に満ちたものはなかったような気がします。

嵐のように過ぎていく日々の生活の中で「立ち止まりよく考えてみることを疎かにしている自分に気がつきました。原点に戻りよく考えてみると見えてくる真実、一見単純で素朴なものがあるだけ斬新に思えたのが何よりもその証拠でしょうか。信念を持ち、周りに助けをいただきながら、ただただ「元気なお母さん」でいようと思います。キッチンのもうじも少しくらい手抜きでいこうかなと考えています。今回このような機会を与えていただき、どうもありがとうございました。

ひまわり白 今井晶子

松居先生の大ファンになりました。子育てというよりも、子どもとバタバタと過ごして一日が終わってしまうという毎日。そんな生活の中で、予想外のことや消化のできないことがたくさん出てきます。母になりたての頃は子育ての本をいくつも読みました。しかし読んでも読んでも気が晴れるばかりか落ち込むばかり。とうとうこの手の本は迷いのある人が読んではいけないと思い、一切見なくなりました。正しいことを教えようと必死になっても伝わらず、私も子どもたちもへとへとになって時に出た言葉は、お母さんの子どもに生まれたのは運命なのだからお母さんの言葉を受け入れて！というもの。状況を上手く消化できなくても運命だと思ったら初めて気が楽になりました。子どもを育てるといふより、子どもと真っ直ぐ真剣に向き合うという方が我が家にはしっくりきます。松居先生のどんな子育てでもOK、理屈ではない、お母さんが元気であれば何でもいい！というメッセージに勇気をもらいました。今度は夫にも聞いてもらいたいです。子育て、人間同士の関わりの本質を楽しく温かくお話くださった松居先生とこのような機会を作ってくくださった幼稚園に深く感謝しております。

ひまわり白 齋藤知子

子育ては色々な問題が起きる。そういう時に相談相手がいると上手くいくというのは納得しました。そして、明るい顔をしていられる目標をもとうと思いました。

ひまわり白 佐藤祐子

松居先生のお話は、軽快な語り口でしたが胸が締め付けられるような現実があるということを知られました。

私自身、子どもを授かってからそれまで数十年かけて築いてきたはずの価値観、人生観を本当にわずかな時間で変えざるを得なくなりました。松居先生のお言葉を借りるならば「そんなことができるヤツはそうそう、いない」まさにその通りです。年長になり、言葉も以前よりだいぶ達者になってきた娘ですが、私のもとに来てくれたときのように「分かろうとする努力」を怠ってはならないと思いました。やるだけやって、あとは祈ることにします…吉とでるか、凶とでるか。どちらにしても楽しみです。講演会を受けての保育参観に参加しましたが、幼稚園は本当に子どもにとって、また大人にとっても楽園！これからも多くの子どもたちが子どもらしくいられる世の中であって欲しいと思います。貴重なお話を聞く機会をいただいたことに感謝いたします。ありがとうございました。

ひまわり白 森本やよい

子どもは親心を育ててくれる事、そして家族や仲間の心を一つにしてくれる事に改めて気付きました。我が家は10人家族ですが、2歳の息子(宇宙人)、6歳の姪(姫)、65歳の母(園長)、3人が一緒にいると不思議と全てうまくいくのです。私や6歳の息子が入ってもダメです。先生がおっしゃるように、家族の中でそれぞれの役割があり、パズルのように組み合わせあってうまくいく。まさにその通りだと思います。

笑いあり、涙ありで、先生のお話をきいてとてもスカッとした気持ちになりました。また先生のお話を伺いたいです。ありがとうございました。

もみじ赤 秋元開未

「幼児の天命は育てる人の心をひとつにすること」という言葉が心に残りました。お話を聞きながら、娘と接する時の祖父や祖母や主人の笑顔がふと浮かびました。楽しいお話のなかで、大切なことをたくさん気付かせて頂きました。ありがとうございました。

もみじ赤 川崎聖恵

「宇宙はなぜ…」「人類の進化において…」という視点は目からウロコでした。衝撃的で、子育ての勇気をいただきました。ありがとうございました。

もみじ白 嘉本良子

先日、小学生の娘の忘れものを届けに行きました。ちょうど中休み。元気に走り出した娘は転び、何人かの友だちがかけより砂を払ってくれました。そのうち高おにのようなものが始まり、ぐんぐんジャングルジムを登る娘は満面の笑み。その一連の様子をながめていたら、急に涙がでてきました。松居先生の講演を聴き、そのときのことを思い出しました。元気で楽しそうにしてくれているだけで、幸せ。そんな気持ちにさせてくれる娘にあらためて感謝したい。もちろん、園の息子にも(笑)

もみじ白 大澤克美

今日は、大変素晴らしい講演会を開いて頂きありがとうございました。実のところ、最近我が家の6歳児、4歳児の育て方に不安もあり、多少息切れをしていました。とにかく兄弟が元気よすぎていつもケンカも絶えず公園でも家でも飛び回って傍若無人にふるまっており、私自身も声が大きくなる始末でしたので。なぜ我が家はこんなにいるさいばかりなんだろうとイライラして怒ってばかり、そんな自分に落ち込んだりしていました。ところが気が付けば彼らをとおして幸せだねと感じる夫と私がいいます。「これでいいのかなあ」「これでいいのかもね」そう話しあっている私はまだまだ元気でした。この、まだ小さな兄弟に色々教わって親にしてもらっているのだとわかりました。我が家の応援歌は長男が生まれた時から365日のマーチです。やはりこうして歩いていくしかないのだと先生のお話を聞いてガッツがでてきました。1日1歩、3日で3歩、3歩歩いて2歩さがっても、歩いていこうと思います。そして祈りながら今ある幸せをたくさん感じていこうと思います。

もみじ白 菅野美嘉

子育てを通して、学ぶ事が多いと再認識できました。父親の役割の大切さも痛感しました。もし、パパもママも一日保育参加の機会があれば体験してみたいです。

もみじ白 内藤玲子

初心にかえろうと思いました。『忍耐』『笑顔』まだまだだなあと反省です。

もみじ白 黒澤聡子

松居先生の面白い話に大笑いし、時々言葉がグサッと胸にささり、ホロリと泣けて…。素晴らしい講演会でした。共に子育てしている家族に、毎日、安心して楽しい時間を与えてくださる先生方に、相談にのってくれる友達に、そして産まれてきてくれた我が子に改めて感謝です。『インドのカレー』と共に、この講演会で感じたことを思い出しながら、子育てを楽しみたい、というエネルギーになりました。素敵な出逢いをどうもありがとうございました。

もみじ白 下村恵子

松居先生の話術にグイグイひきこまれました。なぜ0歳児を授かるのか、忍耐力や想像力を養ってくれる、親心を養ってくれる。この言葉をもっと早く知っていれば、あの必死だった0~2歳児の生活がもう少しイライラせずに過ごせたかもしれないと思います。子育てに大切なのは親たちの精神的健康というのも非常に共感しました。とくに父親に聴いてもらいたい講演会でした。

もみじ白 田中諒子

親は子どもを育てながら、子どもからも沢山のことを得ているのだと改めて感じました。大人の都合のいい「ものさし」で計っていることが多くなっていますが、その子、その子に合った「ものさし」を大切にしていきたいと思います。

もみじ白 長嶋美也子

涙あり、笑いありの楽しい講演でした。恵まれた家庭や環境で育ってきたことに、改めて気付かされました。母親として、今、家族の中でつながりを持ち、育て、育てられていることに幸せを感じました。また、いつか松居先生のお話を拝聴する機会があるなら、その時は是非、主人と一緒に！

もみじ白 西川理恵

とても充実した時間を過ごさせて頂きました。気付きと、元気を頂きました。「お母さんがにこにこしていたら大丈夫!」「オロオロしてもいい」心強いお言葉でした。小野省子さんの詩にも涙。子育ての幸せで貴重な時間を楽しんでいこうと思います。有り難うございました。

もみじ白 伴慶子

「小さいお手てを組み合わせ~神様よい子にしてください♪」初めて聞いた時、感動しました。私はいつしか自分のために歌うようになっていました。幼い子が純粋に小さい手を組んで歌う姿を見て、私もいい人(よい子)になりたいと願う自分に気づきを覚えていたのだ。幸せだなあと改めて感じました。

もみじ白 松島亜希

子育てに正解はないと言いますが、「これでいいのか…」と不安になってしまうことにどうしても出くわしてしまいます。でも「お母さんが元気でいればそれで良い」という松居先生の言葉に救われました。これからも子育てで戸惑うことがあると思いますが、前向きにとらえ、元気なお母さんでいたいと思います。その他にも為になるお話をたくさんして頂きました。笑いあり涙あり、素晴らしい講演会でした。このような貴重な機会を与えて頂き感謝いたします。ありがとうございました。

もみじ 匿名希望

松居先生はお話慣れていらっしゃって笑いあり時には涙しながらあっという間に時間が過ぎていました。幸せは自分のものさしで感じるもの、子どもたちの幸せは親子関係にある、子どもにとってお母さんは元気でいてくれたらそれでいいとのお話がありました。母として色々な欲が出てきてしまいますが気負わず子育て、家事業を明るく顔で過ごせたらそれでいいのかなあと感じました。いつも講演会に参加すると立ち止まり心が洗われます。このような良い機会を下さった方々に感謝します。

もみじ 匿名希望

笑いあり、涙あり、圧倒されっぱなしの2時間でした。子どもを育て、自分も子どもに育てられているという事は、お話を伺ってつくづく思いました。又、ひとりで子育てをするのではなく、親、教師との信頼作り、幼稚園(学校)との関わりを持つことで相互に感謝の気持ちが生まれ、心がひとつになる→子育てにつながるという事が印象に残りました。

つくし赤 井ノ口志津

母になりもうすぐ8年。子どもが病気になるればオロオロ、言う事を聞かなければイライラ。小さな事にいちいち一喜一憂している自分がとつても情けなく思えてなりません。でも今回松居先生のお話の中で「母ちゃんが元気なら子どもは大丈夫!」とおっしゃっていたのを聞き、とつてもシンプルなメッセージですが、心に響きました。きっとこれからもささいな事に一喜一憂しながら子育てをすると思います。開き直るわけではありませんが、親としては仕方ないと思います。なので、そんな自分を受け入れ、とりあえず自分が元気である事を心がけ毎日おいしいご飯を作ることを基本に、子どもたちの成長を見守りたいと思いました。素晴らしいお話を聞かせて頂き、ありがとうございます!!

つくし赤 岩瀬菜穂美

笑って泣いて、じーんときて泣いて。あっという間のステキな時間でした。子育てにおいて、相談する人がいるかいなか。幸せの物差しの大きさ。お母さんが心身共に健康である事の大切さ。「それで大丈夫!」と繰り返す和先生の言葉にとつても安心しました。小さな神様が我が家に来てくれた感謝を忘れず、日々楽しみながら親子共々、大きな幸せの物差しを持てる人になりたいと思います。ただ、1分で泣きやまず方法は、もっと早く知りたかったです。今回の講演会に参加できて本当に良かったです。

つくし赤 関美佳

入園して2か月での子どもたちの成長に、日々驚かされている最中、松居先生のお話を聞くことができ、我々親の方が子どもから様々なことを教えられていることに、あらためて実感しました。無邪気で素直な子どもたちの笑顔は平和な気持ちになれること…大人の絆までも1つにしてくれること…この大切な輝く笑顔がずっと続く世の中であって欲しいと思いました。これからも母として家族として大人として子どもと一緒に成長していきたいと勇気を頂いた機会に心より感謝しています。先生、役員の方々ありがとうございます。

つくし赤 久保田みゆき

大変すばらしい講演会でした。参加できて本当に良かったです。欠席された友人に「どうでした?」と聞かれ、自分なりに伝えたい思いを言葉にしてみても全然伝えられない。講演会での松居先生の雰囲気や声のトーンなど…あの場に居られたらよかったのに!!もったいない!!  
次回は是非一緒に行こうと約束しました。

つくし赤 横山礼

我が家では家業を私が手伝っていることもあり長男をつくし組に入園させるまで週4日保育園へ、そして次男(1歳3か月)を現在保育園へ通わせています。もちろん家業よりも育児が大事と心の中ではわかっていても色々なバランスがとれないでいる事も多く日々悩む事も多いです。そんな中での本日の講演会でお話を聞いて反省する部分もありましたが「これで良かったんだ」と背中を押される事もありました。「インドの子は毎日カレーを食べている」の言葉を常に持っていったらと思います。「そして主人からももらったお金をドブにすてている」になぜかとても勇気づけられました。何のために生きているのか考えるよりも毎日をドブにすてるような事があっても母である私が元気でいて子どもと接していけたらと思います。本当にありがとうございました。

つくし赤 渡辺理香

松居和先生のお話し、とても感動いたしました。笑いを交えた巧みな話術に、開始早々すっかり引き込まれました。アメリカでは3人に1人が母子家庭、少女の5人に1人が近親相姦、不幸な環境に育った少女が幸せ(温かい家庭)を求めてシングルマザーになり、育てきれずに虐待し不幸な子供が生まれるといった悪循環のお話は衝撃的でした。聞いていて心が苦しくなる思いでした。自分の自由を捧げる事で得られる幸福。幼児とは自分を善人にするために宇宙から与えられた存在。いままでの子育て論では聞かなかった言葉でしたが、まさにその通りだと思いました。特に「相手の気持ちを理解しようと思った時に平和になる」という言葉が印象的でした。福祉が充実すれば家庭が崩壊するといったお話がありました。インドの田舎では親心があふれていると。家族を養う為の仕事、親の介護、傷病、心身のリフレッシュなど、福祉サービスを利用する理由は多々あります。サービスを利用する事がすべて悪い訳ではなく、問題なのは利用する者の心のありかたで、過剰なサービスを要求し、従事者に対する感謝の気持ちを忘れていた事が悪いのだと、普段あまり深く考えないような事を考え、また自戒するこのような素晴らしい講演を聴く機会をお与え下さった事に感謝いたします。

つくし白 富田好美

笑ったり泣いたり、目からウロコだったり、あっという間の2時間でした。最近子育て中の母親同士で、ベビーカー論争しかり、飛行機に赤ちゃんを乗せるか否かという議論しかり、日本が子育てしにくい国になってしまったのはどうしてなんだろうということを話しました。松居先生のお話を聞き、その原因はやはり、子育てを経験しない人が増えたからではと思いました。子どもがひとりいるだけでみんながいい人になろうとする。優しい目になる。その優しい目が、電車の中や飛行機の中、社会全体に広がればいいあと願わずにはられません。保育士1日体験を保育園はもちろんだら、全国の企業で義務付けてもらいたい! と思ってしまいました。大変貴重なお話を聞くことができ、講演会を企画して下さったみなさま、ありがとうございます。

つくし白 小田慶子

とても楽しく、笑い、ホロリと感動しました。ちょうど、講演会の前日に、お友達のママから晴矢が私の事を「ゆづ(兄)のママ」と紹介していたのよ〜と聞いたばかりだったので、同じような内容の詩を聞いてびっくりしました。ちゃんと「晴矢のママ」ができていなかったのかな…と反省。(兄弟逆パターンですが) いつも叱ってばかりですが、しっかりと寄り添い、愛情をかけながら共に成長していきたいなと思いました。色々考える、良い機会をいただきました。ありがとうございました。

つくし白 納谷多恵

こんなにも笑いと涙があふれる講演会は過去に記憶がありません。息子を出産して、これまで大変だったこと、悩んだこと、迷ったこと様々なことが、先生のお話によって認められ、肯定されたような気がして涙が止まりませんでした。本当に貴重な時間をありがとうございました。

つくし白 田中貴子

松居先生のお話に初っ端から引き込まれ、一語一句聞き漏らすまいと必死に聞かせて頂きました。子どもを授かってから、子どもの虐待事件に接する度に胸が張り裂けるような気持ちで、この虐待の連鎖をどうしたら断ち切れることができるだろう、自分には何ができるだろうかと考えていました。安易な気持ちでアメリカの孤児院のような発想をしていましたが、それが完全に間違いであるということに気付かされ、いかに浅はかな考えだったかと驚愕しています。根はもっと深く、複雑なんだと…。まだ意思表示が上手にできない娘と毎日格闘する日々ですが、私自身の優しさ、忍耐力、人間性が試されている、育てられているという気持ちを忘れずに毎日笑顔で過ごそうと思わせてくれる素敵な時間でした。もっともっと松居先生のお話を聞いてみたいと思いました。このような方を講演会という形で出会わせてくださる幼稚園に入園することができたということに心から感謝しています。ありがとうございました。

つくし白 沼尻紀子

笑って泣いて、とても心豊かな素敵な時間でした。「宇宙がなぜ0歳児を与えたのか」0~3歳毎日毎日分らないことだらけで必死でした。でも、その笑顔を見るだけで疲れが吹き飛びました。その存在こそ「絆」が生まれていたのですね。0歳児には大切な役割があることを知りました。マサイ族の風景、いつか実践してみたいです。「4歳児完成説」信じて、頼りきって、幸せそう。本当にその通りだと思いました。幼稚園という集団生活に入って間もないですが毎日とっても楽しそう。見ているだけで自然と笑顔になり元気をもらいます。当たり前のように手をつないでいましたが、これからはつないでもらえる幸せを感じながら小さな手を握ろうと思います。今日のお話を聞いて子どもを授かり、今まさに完成型である4歳の娘達と一緒に過ごせる日々が、これから違った世界に見えてくると思います。もっともっと子どもに目を向けて、たくさんオロオロしながら「親心」を育んでいきたいです。そしてこの幼稚園で私自身も「生きる力」をつけていきたいです。

つくし白 長谷川倫子

母親も子どもを預けて働くのが当たり前になりつつある中で、子育てに専念する事に肩身の狭い思いをする事がありました。今日の松居先生の講演を聴いて、そんな思いをする必要はないんだと、ほっとし、自信が持てました。子どもを育てるといふ尊い経験をさせてもらっている事に感謝し、誇りをもって日々過ごそうと思いました。今日のお話に感銘を受け、家に帰ってから私の母にも今日のお話の内容を話しながら一緒に共感しました。

つくし白 宮崎香織

冒頭での未婚の母の多さにとっても驚きました。と同時に両親も健在、夫も友人にも支えられ子どもと向かい合える自分の恵まれた環境に改めて感謝の気持ちがいっぱいになりました。幼児とのつき合いの中で互いを育み合うことで人間性、信頼関係が生まれ、ひいては社会のモラルや秩序の向上につながっていくと感じました。かつて幼児だった長男が次男のお友達に接する時にびっくりする程優しくなるのも「いい人になりたい」という心情なのだ、そうかもしれないと思いました。ユニモアを混じえて深く真理をつく先生のお話はとても強く心に残りました。子育て、親育てを楽しく励んでいく力をいただいた気がします。すばらしい機会をありがとうございました。



つくし白 松永のり子

幼稚園よりいただいた今日の講演会のプリントの「子はかすがい」ではなく「子育てはかすがい」なのです」という一文に私はハッ！とさせられました。そして思いました。「(なるほど) …そうかもしれない！」

…あっという間に心を掴まれてしまいました。松居先生のお話は終始「(なるほど) …そうかもしれない！！」や「そうなんです！その通り！」の連続でした。特に胸を打たれたのは「母ちゃんは笑顔でいればいいの！そしてオロオロするの！それでいいの！」というお言葉です。日々自分の子育て、接し方にあれこれ迷い、また子どもの一刻と変わっていく反応にも戸惑いを感じる事も増え難い顔をして迷走していた私にとって、明るい光が差したようでした。全身の力が抜け、笑いと涙が浮かび、次々にこぼれ続けました。「子どもが育つには親たちの精神的健康が不可欠」まずは母ちゃんの笑顔だったのですね。そして子育てを通じて、本当は私たちが育てなくてはならず、また既にもう子どもたちに育ててもらっていたのですね。

松居先生、胸に染み入るお話の数々を本当にありがとうございました。これから先も、きっとオロオロし、また難しい顔をして迷い出してしまうかもしれませんが、松居先生のメッセージを道標に道を見つけ、作り出していかれるような気がしています。心にパワーを注いでいただきました。本当に、本当にありがとうございました。

ひまわり白／つくし白 村上美夏

松居先生のひと言ひと言が胸に響き、とても勇気づけられました。娘や息子達とのこの数年間を振り返るだけでなく、自分自身の幼少期のことも思い出し、両親や祖父母に更なる感謝の気持ちを持たずにはいられませんでした。今日のお話を心に留め、今のこの時間を大切に過ごしていきたいと思えます。

つくし白 葭原由美

お話を聞いて、まず素直に思ったのは、気持ちがとても楽になりました。そして、もっと子育てが楽しめると思えました。この3年間、子育ての中で、子どもに沢山の事を教えてもらい、一緒に成長してこれたと思っていました。改めて実感し、親になれたことを幸せだと思えました。そして、あまり考えすぎず、子どもと共に育てあい、育ちあおうと思えます。

卒園生保護者／チューリップ 福馬麻子

松居先生の講演会は2度目ですが、とても楽しみにしていました。笑いあり、涙ありのお話ですが、すべてデータに裏打ちされ、時折見せる真剣な眼差しに先生が失われゆく親心とその人間社会の末路を危惧されている事が伝わって来ました。先生の仰った「相手の気持ちを理解しようとする事」と「幸せは自分のものさしの持ち方」という言葉は、すべての人間関係に当てはまると思えますが、まずは自分自身が家族という最小単位の人間関係の中で気持ちを理解しようとする努力を忘れないようにしようと思えました。

子どものためにしてあげている、という思いがあると何かとイライラしてしまう事が多いですが、「ドブに捨てて徳を得る」という先生のお話を思い出すと自然と笑ってしまいます。素晴らしい講演会に参加させていただきありがとうございました。

卒園生保護者／すみれ・チューリップ 岡田美穂

「お母さんが元気で、明るい顔でいられること」の大切さや「子どもが病気になったら、オロオロする」その心もちがいののだということ、「子育てに祈りは欠かせない」という松居先生のことばがとても心に残りました。子どもに「親心」を育ててもらっていることに感謝しつつ、毎日元気で明るい顔でいられるように心がけたいと思えます。ありがとうございました。

卒園生保護者／すみれ 清水玲子

先生の持つ独特な雰囲気、そして歯に衣着せぬ痛快な口調に、大爆笑あり、苦笑あり、ほろりと涙することがあり、胸に刺さる一言ありの講演会でした。経験者ならではの視点や気づき、「子どもの使命を全うさせてあげることの大切さ」を改めて考えるいい機会となりました。ぜひ主人とそして母と参加したかった！と思わずにはいられませんでした。参加する機会をいただきましたこと、感謝いたします。どうもありがとうございました。

卒園生保護者／すみれ 永井奈津子

久しぶりの幼稚園の朝。お母さまと離れたくないとがんばるお子さまを見て、とてもほほえましく、こんな時もあったなあと懐かしく感じました。

講演後は、このお子さまに重ねて息子が幼稚園の頃を思い出していました。朝離れられない息子、お友だちと遊ばず先生にくっついている息子、当時は不安と焦りばかりが先立っていたように思えます。そんな折、雑談の中で、先輩お母さまが『○○(その方のお子さま)は生きてるだけでOK!』と……。冗談交じりの笑い話でしたが、それを聞いてはっとしたことを思い出しました。

松居先生曰く「幼児は、存在そのものがすごい」まさにその通りだと思います。私は、この子そのものの尊さを見失っていました。講演を聞いた今思えば、あの頃の私の不安さえも、親子のきずなを太くするのための大切な時間、祈りだったのかもしれないですね。親は与えるものとはばかり思っていました。このように、振り返ればたくさんのもをもらってきたことに気づきます。

このような気づきを授けてくださった松居先生に、このような機会をいただき、また貴重な幼児期を親子の関わりを大切にしながら過ごさせていただいた幼稚園に、そして私を育ててくれた息子に、感謝します。